

NO. 30
1984. 1

同窓会報

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



同窓会主催記念音楽会

「菅原洋一コンサート」

学園
近況

新年前おめでとうございます。
同窓生の皆さん如何がお過ごしでしょうか。
年に一回、しかもいつもいま頃発行される会報に、学園の近況を書けといわれると、ついつい同じような内容になってしまいます。今回は趣向を変えて、私の今日一日の仕事を中心にまとめてみますので、その中から学園の近況をお察していただけたらと思います。
東京もひどかったようですが、ここ二、三日続いた寒波の影響で、米沢は大変な雪が降りました。いつもより早く出勤して、当番の先生方や生徒と一緒に駐車場や入口の除雪に心地よい汗を流しました。職員朝会で通学列車やバスの運行状況を確認し、今日も定刻通りに始業することができました。こんな大雪の中を頑張って登校してくれる生徒たちのために、「立派な授業をしよう」と語りながら、こもごも職員室に戻りました。

今日は木曜日で、朝のショートホームルームは「生徒会だより」を放送する日です。今朝は、この度全国都道府県対抗女子駅伝大会に出場する陸上クラブの選手の壮行式を行いました。いま全国私立学校協会の要職にあって「私学助成金」の増額を実現するため、上京して日夜奮闘中の校長先生に代って、私が激励の挨拶を放送しました。女子駅伝は昨年に統いて二度目ですか、今年も山形県チームの中に本校から四名の陸上クラブの選手が選ばれました。それこそ県民の期待を一身に背負つて京都の都太路を走る選手たちに栄光あれ、と祈るような気持ちで話をしました。午前中二時間、午後二時間いずれも一年生に「現代社会」の授業をしました。今日は単位認定試験に備えて、一学期にやつた「生きることの意味」や「学ぶことの意味」を総復習して、生徒と一緒に考えてみました。いま、昼休みや放課後ともなると、間もなく行われる恒例の小倉百人一首のカルタ会（クラスマッチ）に備えて、生徒たちは練習に余念がありません。

今夜は、九里学園教育研究所主催の新春音楽会「深沢亮子ピアノ・リサイタル」がセンター・ホールで開催され、同窓生の方々も沢山お出でになりました。地域の方々に少しだけ良い芸術を提供しようと、学園の試みは着実に定着しているようを感じました。

同窓生の皆さん、どうぞ自愛されて今年も良い年でありますように祈ります。（加藤和夫記）

— クラス会 —

この校舎に私達の青春が



一、明治の暦の三十四
基は成りぬ我が母校……

二、羽南の空に名君の
御跡は永く世に薫る……

願つております。

昭和十八年卒業

伊藤 石川

めんごい生徒たち

向田信雄



何年かぶりで同級生にバツタリ出会い、ふと過ぎ去った年月を感じました。懐かしさで話がはずめば、そんな年月は一気に十数年前のあの

若かつた時代の気持ちにもどつてしまします。そんな事で当然の様に「クラス会」の話がまとまりました。

私達が九里学園を卒業したのは四十一年春で、今年で十七年になりました。今回のクラス会は、近く県内に住んでおられる方だけで最初やつてみようとは、校内案内説明していただきながら、大きくなった校舎もさることながら、個性の開発に重点を置いた各学習、各種の研修に広く活用し、改善され、授業内容の素晴らしいところを、私達在校当時を思えば正に、夢の殿堂そのものと只驚嘆するばかり。今、昔はと嘆ずる前に、四十年の時の流れと現代の若者の幸せをしみじみと感じた次第で御座りました。

明治の母が、大正の私が同じ学園で学び、昭和の若者が新しい校歌と共に九里の伝統をしつかり受け継いでおられる事を知り、これからも大きく发展、成長する事でしょう。我が母校を誇れる幸を感じて参りました。

校長先生始め、お世話を下さった先生方、そして私達の母校を隅々まできれいに大事にして下さっている在校生の皆様、有難う御座ました。

当、吾妻の出湯でのすみれ会一同、つきぬ話題に今までにない楽しい一夜を明かしましたのは言えます。迄も御座ません。今回都合で会に出席出来なかつた方々の為に母校訪問の機会をもう一度と



昭和四十一年卒業 丸山善美子
(旧姓 片桐)

早いもので本校に来てから二十年になる。先日は新任一年目の時のクラス会が小野川で行なわれた。十五人ほど集つたがみんな元気で、子供を育て一家の主婦として立派に努めているようだ。当時は三階建はめずらしく生徒達も喜んでいました。新潟地震のあった年だ。

同期の桜は須貝、内須川、長谷川、中村(光)の各先生方で商業科が一躍増えた年。校舎も三階建が完成。当時は三階建はめずらしく生徒達も喜んでよく屋上に上っていた。グランドの整備、中庭づくり等には沢山のモソコがあつて土運びに生徒と共に汗を流した。生徒は明るく素直で気の利く方が多かった。自分達が利用している駅を掃除したり花を生けたり、また針刺しを準備したり等大変喜ばれた。先輩に習つて後輩がまた続いたのだ。生活部長は現在事務をしている敏子さんで大活躍でした。靴の流行は先が尖つていてのに対して、制靴はやや丸型だった為にセンスがない、変えて欲しいとの要望があった。しかし数年後には制靴に似た感じのが流行となり不満は出なくなった。冬のオーバーは紺の規定されたもので、女学生らしく好感もてた。髪型は逆毛が流行で放課後になる事しばしばつとうする者もいた。学習態度は非常にまじめだった。簿記の検定前は生徒の方から補習して欲しいと積極的だった。何事においてもやる気があってめんごい生徒が多かった。

皆さんの生活がなんとなく感じられて、幸せにしていらっしゃるんだなあ、ととてもうれしく思いました。若い時代の友達とは、何年も会っていないとも、会えば氣軽に「オッ」と挨拶ができる話も出来るものなのです。皆さん一人一人、それぞれ毎日の忙しい生活の中で、こんな友達もいる事を思い出して話し合う機会を持てたら、どんなに心強い事かと思いました。思つ存分話し、食べ、飲んで、次回の再会を固くして名残り惜しく解散致しました。



九里学園同窓会東京支部の「五十八年度激励会」が今年も上野精養軒で行なわれました。大正十一年から昭和五十八年度迄の卒業生三百余名と、九里茂三校長先生始め進路指導の先生方、昭和二十六年卒業の私達も教えて頂いた古川つゆ先生など、懐かしい顔が一堂に揃いました。会場は余興に、若い方々のバスガイド、職場の経験談、先輩方の心暖まる励ましの言葉にぎやかな合唱など、年を忘れてのひとときを過ごすことが出来ました。母校からのお土産に先生方がお持ち下さいました。出来たてのつまきの何と美味しかった事でしょうか。会の始めに九里校長が「私は米沢の九里出身ですと、どこへ行てもおくせないで言つて来た」と言われたお言葉の意味を繰り返しかみしめながら帰路につきました。ここ迄企画して下さいました方に心から感謝申し上げますと共に、次回を心待ちにしております。

七月に入つて鬼怒川温泉一泊の同級会を行ない母校の八十年記念式典も三年前、盛大に終り、今年は八十三周年をかぞえることになりました。同窓会もこれを記念し、初めての試みではあるが、総会と共に講演会などを催してはと役員会で話し合いになり実施してみたわけです。それにふさわしい会場の設定とか、会員券の発行などをやってみました。

一、日時 昭和五十八年十月十五日(土)PM二時
二、場所 ホテルサンルート米沢
三、会費 200円
四、内容
(1)総会
(2)講演会 (研修)
(3)懇親会

講演会の講師は、前県警婦人補導官、太田ミツ子先生をお招きいたしました。テーマ「親として考えるべきこと」内容は一口に申し上げられませんが、現代の青少年非行問題にふれられ、多くの非行例をあげるとともに、母親としてのあり方を具体的に説明いたしました。非行は家庭環境から云つても過言でないようです。子ども達は、毎



総会・研修会を終えて

が今年も上野精養軒で行なわれました。大正十一年から昭和五十八年度迄の卒業生三百余名と、九里茂三校長先生始め進路指導の先生方、昭和二十六年卒業の私達も教えて頂いた古川つゆ先生など、懐かしい顔が一堂に揃いました。会場は余興に、若い方々のバスガイド、職場の経験談、先輩方の心暖まる励ましの言葉にぎやかな合唱など、年を忘れてのひとときを過ごすことが出来ました。母校からのお土産に先生方がお持ち下さいました。出来たてのつまきの何と美味しかった事でしょうか。会の始めに九里校長が「私は米沢の九里出身ですと、どこへ行てもおくせないで言つて来た」と言われたお言葉の意味を繰り返しかみしめながら帰路につきました。ここ迄企画して下さいました方に心から感謝申し上げますと共に、次回を心待ちにしております。

東京支部 昭和二十六年卒業 安藤君子 (旧姓 青野)

(新姓)

昭和二十六年卒業 組合会員

「妻を語る」

妻の存在を今しみじみと

伊藤克彦

ました。昭和二十六年商業科卒業生で集まつたのは米沢から五名、関東方面から四名と少人数でしたが、約三十年振りの再会に夜更けるのも忘れて語りました。その中で私が痛く感心した友人の話を一つ。東京に嫁いだお姉さんのお産のお手伝いに南陽市から上京された時の事。訪ねて来たセールスマンに「品物は買えないが山形の美味しいリンゴをどうぞ食べて行って下さい。」ともてなしたところ、そのセールスマンは「こんな事は始めて」と大変喜んで帰つたそうですが、後でお姉さんにひどく叱られたそうです。忘れていた故の優しい心に触れた想いでした。

次の同窓会には「私達の担任でした丹野先生のお墓参りと、大きく発展した母校を訪問したいと約束してお別れしました。

昭和十四年、改めて「妻」について語ると、結婚は昭和四十一年の誕生以来、男児三人、女児二人と五人の子供が生まれ、育児と家事に奮闘の毎日が現在も続いている。妻にしてみれば愚痴の三つ、四つてゆくのです。家の子に限つてという考えは、通用しなくなつた世の中である。正しい愛情と厳しさの中で子どもを見守り、ふれ合い、学校にないものを家庭につくつてゆくのが、母親の役割りと責任であると強調しておられたのが印象的でした。感動されるお話を数々だつたと存じます。

おかげ様で、この行事にご参加下さいました同窓生、若い方々から大先輩まで、年代層も巾広く百二十名の多数におよび、終始ごやかな雰囲気の中で、盛大に終了できました。ご協力誠にありがとうございました。

最後に反省として考えられたことは、十月はお

互い多忙な月、六月頃はいかがなものでしょうかと云うござ見、また今年は都部まで徹底できなかつたことを、こころよりお詫び申し上げます。来年度こそはと役員一同、はりきつて計画いたしましたので、今年にまさるご参考をいただけますようお待ち申し上げます。

こう考えると、妻の存在は大きなものだと感謝しなければならない。難を言えば料理の味付けはお世辞にもうまいとは言えないが、我が家はこれからが子育てに一番大切な時期である。妻にはまだまだ一頑張りしてもらわなければならぬ。唯一の楽しみであるママさんバレーで少し体をスリムに、それは無理として健康にだけは十分に注意し、家事に子育てに頑張つてもらいたい。



昭和三十九年卒業
(妻)伊藤郁子
(旧姓)生熊

郷土料理

大志田万亜子記

新巻鮭の食べ方いろいろ



音楽会 音楽と仲間

蓮沼聰子

私が小学校に入ったばかりの音楽の授業での事。普通の歌なのに、先生の伴奏がつくと歌がふくれあがつたような感じがした。それがひどく嬉しくて、歌つていてる最中に笑つた事がある。側目から見たら妙な子どもに映つたかも知れないが、私とても喜んだのである。

それからしばらくして、私はもう一つメロディーをふくらます事ができるものを発見した。クラブで経験した合奏である。一人ですると感動とは程遠い音が、やはり味気ないメロディーだと思えるみんなの音と重なるととても信じられない音楽ができるのだ。幾重にもなつた音は様々な和音となり、次々と展開していく。自分がバカにしていた一音が抜けると和音は生きない。そのため、より個人の音を大切にし、自分が一生懸命作つた

1. 氷頭なます	
蛙の頭	1 個
大根	1 kg
人参	100 g
昆布	30 g
しょぼ	30 g
うが	30 g
酢水	30 g
砂糖	30 g
塩	30 g

ふりかけてよくもみ、昆布を混ぜる。

④合わせ酢を小なべに入れて火にかけ、ひと煮立ちさせて冷まし、それを③にかけ汁けをきった②も混ぜる。一晩おくと味がなじみます。味が薄くなつたら合わせ酢を補うといでよう。

作り方
①蛙の頭は薄切りにししょひがの薄切りと一諸にヒタヒタの醤に1日つけておく。

②頭だけを取り出し更に砂糖少々加えた醤に約1時間はど漬けておく。

③大根は皮をむいて、せん切りにし、人参もせん切りにする。それに塩大きさじ1を切つ

た。それに塩大きさじ1を洗つて堅く絞り、細く切つ

た。それに塩大きさじ1を洗つて堅く絞り、細く切つ

2. 鮎の酢漬け	
塩	2 切
蛙	1 本
赤と	少々
バセリ	1 ブラウス
み	1 カップ
つけ	3 個
汁	1 大さじ
酢	小さじ
糖	2 うが
塩	小さじ
お	にく
各	よし
揚げ油	2 うが
小麦粉	2 うが

3. 塩鮎のかす煮	
塩鮎の頭	1 個 分
昆布	15cm
小かぶ	5 ~ 6 個
じやがいも	小4 個
人参	小1 本
玉ねぎ	100 g

かすを煮汁でといて加え、ひと煮立ちしたらあつあつを供す。

作り方
①鮎の頭は一口大のそぎ切りにししょひに粉で小麦粉でまぶし、中温で熱した油でからりと揚げる。

②赤とうがらしは種を取り薄い輪切りにする。

③つけ汁の材料を全部混ぜ合

わせて、②の赤とうがらしをつけ汁を加え揚げたての鮎をしきしみたら器に盛りパセリをふる。

作り方
①鮎の頭はぶつ切りにして水洗いする。昆布は結び昆布にする。

②3分の水を煮たてた中に①を入れて弱火で約20分煮込む。

③じやがいも、人参、玉ねぎは大きめの乱切りにし、かぶは茎少々残して皮をむき2つに切る。

④②に③を加えて柔らかくなるまで煮てから、酒

九里学園同窓会

昭和58年度予算

支出の部	58年度予算額
運 費	(476,631)
事務費	50,000
通信費	50,000
会議費	50,000
慶弔費	70,000
人件費	150,000
激励会	100,000
雑費	6,631
事業費	(620,000)
音楽会	500,000
会員証	20,000
会報	100,000
研修費	0
寄付金	0
基本費	1,000,000
予備費	250,000
繰越金(仮受金)	1,320,000
合計	3,666,631

収入の部	58年度予算額
繰越金	1,064,631
入会金	318,000
終身会費	954,000
仮受金	1,320,000
雑収入	10,000
合計	3,666,631



四月から学校を休職され、療養中であられた、高橋清一先生が、去る十月十八日、病状急変して逝去されました。慎んで報告いたします。先生は、ボンナ先生といふ愛称でみんなに親まれ、土くさくてあたたかい雰囲気をいつも持つていらっしゃいました。哀悼の思いをこめて、心から御冥福をおいのりいたします。

高橋清一先生

計報

一九八四年も明け、会員の皆様には増えご活躍の事と思います。ここ米沢地方も寒波襲来と共に毎日雪との戦いが始まっています。さて今回の会報は昨年中に行なわれました同窓会の諸活動を掲載いたしましたが、もつともっと多くの同窓生の参加を得まして今後とも活発で、実り多い会にしていこうと役員一同心を新たにいたしております。どうぞ、ご意見、ご感想を事務局まで遠慮なくお寄せください。

編集後記

(大久保記)

